



JASDAQ

2021年4月9日

各 位

会 社 名 株式会社 イメージ ワン  
代表者名 代表取締役社長 新井 智  
(JASDAQ・コード2667)  
問合せ先 取締役管理部長 菊本 雅文  
(TEL 03 - 6233 -3410)

(開示事項の経過) 創イノベーション株式会社とのALPS処理水除去技術

の共同実証試験に関するお知らせ

当社は、2020年8月25日付で公表しました「創イノベーション株式会社とのALPS処理水除去技術の共同実証試験に関するお知らせ」の通り、創イノベーション株式会社(本社：東京都千代田区 代表取締役：神保安広、以下、「創イノベーション」)と取り組んでいる「ALPS処理水に含まれるトリチウムの分離技術」の共同実証試験(1次試験及び2次試験)について、1次試験の完了(2021年2月4日付公表)に続き、今般、2次試験の結果が得られたのでお知らせいたします。

#### 1. 実証試験の主旨

当社は、ALPS処理水の減容化及び清浄化等に関する有望技術を擁する創イノベーションと共同して、ガスハイドレート法によるトリチウム分離技術の検証のための実証データを得ることを目的とした共同実証試験(1次試験及び2次試験)に取り組んでおります。

#### 2. 実証試験の概要及び1次試験結果の再掲

ガスハイドレート法の処理効率向上・コスト低減型コンセプトを実装した評価試験機にて、福島第一原発ALPS処理水相当の濃度(1リットル当たり約50万ベクレル(約50万Bq/L))に調製した模擬トリチウム水からトリチウムを分離して、海洋放出の運用基準(1,500Bq/L)以下に低減できること、分離したトリチウムは濃縮液の状態では処理前の1/100以下に減容可能であることを実証する試験です。

トリチウム水のガスハイドレート化によって模擬トリチウム水からトリチウムを分離する1次試験では、トリチウム濃度47.6万Bq/Lの模擬トリチウム水を処理した3回の試験結果で、いずれも海洋放出の運用基準である1,500Bq/Lを下回る数値が得られました(2021年2月4日付公表)。2次試験は生成したトリチウムガスハイドレートを維持したまま、新たな模擬トリチウム水を接触させトリチウムガスハイドレートを積層させるようにして分離及び蓄積を繰り返す試験になります。

#### 3. 2次試験の結果について

上記記載の2次試験として、トリチウム濃度46万Bq/Lの模擬トリチウム水を用い、3回の分離及び蓄積の繰返し処理を実施した結果、分離側の濃度は全て1,500Bq/L前後の数値が得られました。一方、蓄積側は3回の処理後のトリチウムガスハイドレートの濃度分析から、相応のトリチウムの蓄積を確認することが出来ました。分離側、蓄積側の両方の濃度確認により繰返し処理数に相当する濃縮・減容化が可能であることが確認出来たこととなります。

#### 4. 今後の共同実証試験予定及び事業展開について

今後の共同実証試験については2次試験の継続実施に加えて実機設計のためのデータ収集を進め、2021年6月末を目途に、一連の実証試験報告書作成完了に向けて取り組んで参ります。

また、今回の試験結果を踏まえて、国内では福島第一原発ALPS処理水対策事業への採用、海外では米国、ヨーロッパ諸国等の原子力発電所保有国への技術紹介、採用等の事業展開をしていきます。

#### 5. 今後の見通し

本実証実験による2021年9月期の当社業績への影響につきましては軽微であります。なお、開示すべき事項が生じた場合は速やかにお知らせいたします。

以 上